



川中だより

令和5年6月30日（金）発行

新発田市立川東中学校

学校だより 第3号

TEL (25)2011 FAX (25)2022

<https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

校長 清水 謙一

去る6月9日、23日、24日に下越総体がありました。川東中学校からは、バレーボール部、卓球部、軟式野球部が参加しました。私は、9日の試合は別競技の競技役員としての役割があったため、残念ながら生徒たちの活躍ぶりを見ることはできませんでしたが、23・24日はバレーボール部と卓球部の会場に出向き、試合を観戦することができました。

試合の結果は後のページで詳しくお示しますが、入賞して県総体に出場できる部と今大会をもって3年生は引退する部があります。今大会が満足いく結果だったかどうかは一人一人違うかもしれませんが、それぞれの生徒が、チームがひたむきに、全力でプレーしている姿を見て、校長としては目頭が熱くなるものがありました。そして、日頃から部活動に真剣に向き合う生徒たちの練習ぶりを見てきた私としては「よく頑張った、胸を張って帰ってきてほしい」と心の底から感じました。生徒の皆さん、本当にお疲れさまでした。そして、これまで顧問の指導に対し、多大なるご支援とご協力をいただいた保護者の皆様に、心から感謝申し上げます。

話は変わって、6月5日に行った全校朝会の折に、校長講話の中で「JRC」について話しました。川東中学校は伝統的にJRC加盟校だからです。しかし、全校生徒に「JRCって何？」と質問した時に、知っていた生徒は全校で2名だけでした。そこで、全校朝会の話の中で「Junior Red Cross=青少年赤十字」であること、赤十字社を創設したアンリーデュナンの功績、赤十字活動の目的などについて簡単に説明しました。

私自身もJRC加盟校に勤めるのが、初めてだったため研修会などを通じて勉強しました。その中で、青少年赤十字の考え方にとても共感できるものがあったので、このように生徒達にも伝えましたので、ここでも紹介します。

《青少年赤十字の実践目標》

- 1 健康・安全 生命と健康を大切にする
- 2 奉仕 人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、実行する
- 3 国際理解・親善 広く世界の青少年を知り、仲よく助け合う精神を養う

この青少年赤十字の考えの中でとても共感できたのは、「誰かに強制されて行動に移すのではなく、一人一人が自分の生活または社会の問題などに『気づき』、その解決のための方法を『考え』、具体的な活動を『実行する』ことが大切である」という部分です。

1学期の始業式や入学式の中で、私は生徒たちに「中学校3年間で自立した人に成長してほしい」と話しました。この青少年赤十字の考え方のように生徒たち一人一人が人のため、学校のため、しいては社会のために「気づき」「考え」「実行する」ことができるようになることを目指し、日々の教育活動を進めていきたいと考えています。ぜひ、保護者の皆様からのご理解とご支援をお願いします。